



## ひので映画大使最新版

## 第45回映画大使「永遠の0(ゼロ)」

期 日 平成25年12月21日(土) ※公開初日！  
 場 所 イオンシネマ日の出

## 【作品紹介】

350万部を超える大ベストセラーとなった感動作(原作・百田尚樹)が遂に映画化されました。太平洋戦争末期、零戦パイロット・宮部久蔵は何故「臆病者」と呼ばれたのか…。やがて衝撃の真実が語られる！

「ALWAYS 三丁目の夕日」シリーズの山崎貴監督がメガホンを取りました。出演は、岡田准一、三浦春馬、井上真央、他の皆さんです。



(C)2013「永遠の0」製作委員会

## 映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

## ▶ 映画大使の「第一声！」

- ☆ 永遠に平和が続いて欲しい・・・
- ☆ 感動で心が震えました・・・
- ☆ 岡田准一さんがカッコイイ！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

## ▶ 映画大使の「映画のツボ！」

## ■ Aさん

本当の意味での戦争が描かれていたか、という面では、もっと悲惨な描写のある小説や映画に比べると、抑えられていると感じました。真実が伝わるかというのは別として、作品としては良かったですね。

## ■ Bさん

私にとって、記憶に残る作品となりました。本当の人間の強さとは、心が強い事なんだと教えられました。

## ■ Cさん

あの戦争で、身内が亡くなっている事もあり、戦争映画はあまり観たくなかったのですが、本作は家族愛や、信念を貫く生き方が描かれていたので、安心して観る事が出来ました。戦中、私の叔父が乗っていた空母が撃沈されて、叔父は戦死しましたが、どんな気持ちで死んでいったのか、考えさせられる作品でした。

## ■ Dさん

戦争を実際に体験した方がこの作品を観たら、リアルさの面で意見があるかもしれません。でも、この作品のもう一人の主人公(三浦春馬さん役)は現代に生きていて、その視点から祖父の生き方を振り返っているのですが、それは、戦争を知らない世代が戦争をどう捉えるかという事がテーマであるなら、必ずしもリアリティーだけで伝わるのかというと、それは違うと思います。家族のために生きて帰りたい、という個人の想いを伝えながらも、死んでいかななくてはならなかった。戦争というのは大切なもの、最後の希望すら奪ってしまうんだ、という意味では戦争の悲惨さというのは十分伝わったと思います。

**■Eさん**

戦争という、本当に大変な状況の中で、家族の所に戻りたかったのに戻れなかった辛さが伝わりました。若い人達に戦争というものを伝える意味では、良い作品でしたね。

**■Fさん**

SFものとは違い、本当にあった戦争の映画を観るのは辛いのですが、家族愛や、個人の気持ちに絞った感じでしたね。今の平和が永遠に続くといいなって思います。

**■Gさん**

衝撃的な作品でした。残された人の辛い気持ちや、臆病者と呼ばれた彼が何故特攻に志願したのかなど、心に響きました。命があるってことは奇跡なんだなって思います。戦争という出来事を一人一人が忘れずに、無駄にしないでという意味の「永遠」なのかなって思いました。メッセージ性の強い作品でした。

**📌 作品の内容(印象に残ったシーンなど)**

- ・ 永遠の0(ゼロ)のゼロは、零戦のゼロ以外にも、全てが無くなったゼロ、これからのスタートの意味でのゼロって感じもします。
- ・ 平和は永久に守らねばなりません。
- ・ サザンオールスターズの主題歌「蚩」も良かったですね。
- ・ 岡田准一さんの演技が良かったし、皆演技派でしたね。特に亡くなられた夏八木勲さんが良かったです。
- ・ 黒い空の描写が衝撃的でした。
- ・ CG、特撮が凄い迫力でした。もはや世界に通用するレベルだと思います。
- ・ 鹿児島県の知覧の特攻平和会館に行った事がありますが、将来を嘱望される多くの若者が死んでいったんですよね。。
- ・ 自分の信念を曲げなかった強さに、感服しました。
- ・ 特攻の構想は、真珠湾の時点でもあったそうです。本当に悲惨な戦争でした。

**📌 まとめ**

これまでの戦争映画では、史実の裏にある人間模様をリアルに描く作品が多いのですが、この作品の主人公は、「家族のために生きて還る」事を望んでおり、彼の生きた道と、彼の足跡を辿っていく孫の姿が描かれている点で、これまでの戦争ものとは一線を画しています。

戦争の時代は戦地に行った者も、残された者も「お国のために」戦いました。しかし、人間として生まれてきた以上、「生きたい」と思うのは当然の事であつたろうし、やはり最後は残してきた者を想って死んでいった筈です。特攻で亡くなっていった方達の遺書を見ても、皆、家族への惜別の想いを綴っています。志願せざるを得なかった状況の中で、彼らは死んでいきました。今の時代では想像もつかないほどの潔さ、覚悟だと思います。機体が故障して、引き返す状況になっても、彼らは喜んだりしませんでした。「生き恥をさらす」事にもなったそうです。いかに戦争という行為が愚かであった事を再認識します。そういう時代を知らない若者達に是非観てほしいです。生きる事、想いを貫く事の大切さに改めて気付いて欲しいと思います。

劇場の大スクリーンをご覧ください！

👉 [関連ページ: これまでのひので映画大使](#)

👉 [関連ページ: ひので映画大使のトップに戻る](#)

問い合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係  
電話042-597-0511(内線541)

◀ [前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶